

# 平成27年度 千葉県の実践フィールド校の取組

## 我孫子市立我孫子第一小学校 我孫子市立我孫子中学校

我孫子市市制施行45周年記念映像『物語の生まれるまち我孫子』から



56市町村(37市16町1村) (平成25年1月1日現在)

「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」は、独立行政法人教員研修センターの委嘱を受け、アクティブ・ラーニングを視点とする授業改善等に関する実践研究を進める取組です。平成27年度、千葉県では、推進地域である我孫子市の我孫子第一小学校及び我孫子中学校を中心に実践研究を進めてきました。具体的には、実践フィールド校(県の研究指定校)の自律的な研究を尊重しつつ、両校の授業者に協力いただき、年間複数回の実践を通して、授業改善に継続的・具体的に取り組んできました。また、校内研究会には、次世代型教育推進センター研修協力員が参加し、校内研修の在り方にも目を向けてきました。

### 教育立県「ちば」の実践フィールド校における取組 1-1

## チェックシートを用いた授業改善への道筋

### 「授業チェックシート」とは

千葉県の4名の授業協力者は、毎回の授業実践終了後に「授業チェックシート」により、実践を振り返ります。そして、研修協力員との個別リフレクションにより、授業の改善点を焦点化していきました。

「アクティブ・ラーニング」に関する授業チェックシート<小学校>  
平成 年 月 日 学校名( ) 学校( )  
教科名( ) 学年( ) 教員経験年数( )

1 次の各項目について、評価欄のあてはまる番号に○をつけてください。  
(4:十分達成できた → 1:ほとんど達成できなかった)

授業後の振り返り項目	授業者自己評価	評価項目設定の観点	
1 児童が自ら問いを見いだす(課題を発見できる)よう教材や発問等を工夫した。	4 3 2 1	課題意識や“問い”をもとにした授業づくり	授業づくりの視点
2 児童一人一人が思考・判断する時間を設けた。	4 3 2 1	個人としての活動の確保	
3 児童一人一人が思考・判断したことを表出する機会を設けた。	4 3 2 1	言語活動の設定	
4 児童相互がかわり合う機会を設けた。	4 3 2 1	子供同士の協同性・協働性の機会確保	
5 児童一人一人が、問題解決(課題解決)のために学習していた。	4 3 2 1	主体的・探究的で目的意識のある学び	学習者の視点
6 どの児童にも「やらされている」雰囲気は感じなかった。	4 3 2 1	能動的な学習、学ぶ意欲	
7 他者の影響を受けて児童の考えが深まったり広まったりする様子が見られた。	4 3 2 1	協働的な学びの成果	
8 本時のねらいに迫る「期待する児童の姿」が見られた。	4 3 2 1	教科の本質と学びの深まり(振り返り重視)	

2 「アクティブ・ラーニング」を実現するために取り入れた手法は何ですか。また、その手法について、以下の観点から振り返り、当てはまる番号に○をつけてください。  
(4:十分達成できた → 1:ほとんど達成できなかった)

アクティブ・ラーニングを引き起こす手法【  
(例:グループ学習、問題解決的な学習、ポスターセッション、体験的活動、思考ツールなど)】

その手法に対して、児童は目的を明確にして臨んでいたか。	その手法に対して、児童は十分な知識(既習経験)をもって臨んでいたか。	その手法の導入による「児童の姿容」や「結果の多様性」について、教師は具体的に想定していたか。	その手法の導入による児童の学びの深まり・広がり・つまずきについての評価計画は適切であったか。	その手法を実行する際、児童の主体性を重視し、教師の立場は適切であったか。	その手法の導入に際して、教師は他者の見解を参考にしたり、これまでの課題を踏まえた改善をしたりしたか。	
4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	改善の手だての効果検証の視点
目的や効果の認識	学習方法への習熟度	課題に対する手法の効果についての多様な、多面的な捉え	目指す学習者像と支援の手だての明確化	教師の介入の仕方	校内研究・研修体制	

(例) 学習全体を包括する課題を児童生徒が共有している、(課題・素材は与えられたものであっても、そこに)児童生徒が問いを見いだす。  
【深い学び】  
【主体的な学び】

(例) 児童相互のかわり合いの中で、考えや意見を見直して加除修正したり、わからない(できない)ことがわかる(できる)ようになったりしている。  
【対話的な学び】

### 授業評価の大切さ

育むべき資質・能力を育成するため、また、児童生徒が質の高い深い学びに至るため、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が望まれる。

本チェックシートの各項目を観点とした授業づくりを行ったり、授業リフレクションを行ったりすることを通して、アクティブ・ラーニングの視点から不断に授業改善をしていく。今後の授業の改善点を明らかにするために、授業評価を具体的にを行うことが大切であると考えます。

我孫子第一小学校では、このシートを自校でアレンジし、日々の授業でも利用できるような多くの部数を印刷し、職員室に常備しています。

また、県内の別の小学校では、このチェックシートによる参観者評価をもとに授業リフレクションを行い、具体的な改善案を検討する研究会を行いました。

更に改良を重ね、学校の取組に役立つものにしていきたいと考えます。

授業チェックをもとにしたワークショップ型リフレクション

- 1 授業者の提案を傾聴する。(チェックシートの修正・完了)
- 2 4人組のランダムなグループをつくり、司会者を決める。
- 3 評価で「4」を付けた項目とその根拠を発表し合う。(3分間) 時間内で、1項目ずつ、時間が来るまで順に話す。
- 4-1 評価で「2」を付けた項目とその根拠を発表し合う。  
4-2 どれか1項目を選び、具体的な提案を出し合い、「これだ!」という改善案をグループで1つ決める。(5分間)
- 5 4について、改善案を全体に発表する。(1分間ずつ)

# チェックシートを用いた授業改善の具体

## 1年国語の実践

## 我孫子第一小学校

## 3年国語の実践

7月

### 「うみへのながいたび」

単元を貫く「紙芝居づくり」という言語活動を通して、登場人物の気持ちを考え合う。紙芝居ワークシートに吹き出しを書き、ペアで交流。

授業者は、本時の児童の学びに主体性や目的意識が十分であったかと振り返った。

児童相互がかかわり合う機会を設けた。	④	3	1
児童一人一人が、問題解決(課題解決)のために学習していた。	4	3	② 1

低学年の国語で、本時レベルでの課題意識をどう高めたらいいか。

10月

### 「おもい出してかこう」

生活科「ようちえんとのこうりゅうかい」を題材とした書く活動を中心に単元構成。本時は推敲をねらいとする。前回からの改善点として、児童一人一人の課題意識を高めるため、以下の手だてを用いた。

- 教師のモデル作文の推敲⇒活動のねらいを明確化
- 個・ペア・全体と繰り返す推敲のプロセスの設定⇒教師モデルで学んだことを活用・発揮させる場づくり
- 訂正した本人ではなく、他者にその内容を説明させる工夫⇒推敲を自分事としてとらえさせる

ある児童の学び: ペア・全体・個の活動という学習プロセスを通して、自らの表記の誤りを訂正することができた。

教師のモデル作文には、個で訂正箇所を印をつけられなかった。

ペア学習で、隣の児童に教えてもらう。

全体共有の時間に、他者が答えた訂正箇所を必死に書き写す。

自分の作文で「ようちへん」と書いていた箇所に気づき、自ら「ようちえん」と訂正することができた。

10月

### 「モチモチの木」

本時は、学習材の最終的場面で、主人公(豆太)の心情の変容について想像を広げて読み取ることが目標。叙述に即して、「豆太は臆病でなくなったのか」を課題に読み進める。

全文シートを用いて思考の可視化に努めるなど指導の工夫が見られたが、グループや全体での協議に加われない児童への支援が課題となった。

どの児童にも「やらされている」雰囲気は感じなかった。	4	3	②	1
その手法を実行する際、児童の主体性を重視し、教師の立場は適切であった。	4	3	②	1

全文シートに考えを書き込んだり、根拠とした部分にサイドラインを引いたりする。グループの交流では、課題についての意見交換をする。

教師のやりたいこと(全文シートの活用)が中心で、児童が主体的に学んでいただろうか。

2月

### 「町の行事について調べよう」

総合的な学習の時間との合科で、第一小の創立記念式典の発表資料や原稿を作成する。本時は、仕上がりつつある発表についてふり返り、よりよい発表にするための話し合いを行う。観点を明らかにした上で、対話を活性化するために教師が用意した以下の手だてに沿って、児童は主体的に活動していった。

- 前時に録画したグループの発表の様子をタブレット端末で再生する
- 発表を互いに見合ったときの感想を教師がとりまとめたプリント(「よかったところ」と「アドバイス」の項目分け)を参照する
- 一人の発言に、多くの児童が付け加えて発言するなど、対話的な学びが促進された。

グループ学習時に、適切な示唆を与えられなかった。



教師は本時の目標を踏まえた視点を与えて、グループの思考の活性化を促すなど、適切な介入心がけた。

## 5年国語の実践

## 我孫子中学校

10月

### 「世界遺産 白神山地からの提言」

白神山地の自然を守る方法について、学習材に即して2つの立場に分かれて意見を書く。初めに、同じ立場の者同士のグループで、次に異なる立場の者同士のグループに組み替えて、意見交流。

2回のグループ学習を通して、一人一人が思考・判断したことを表現する時間を確保したが、授業者の期待する深まりや考えの変容には十分に達しなかった。

グループ内でカードを読み合う中で、自然と対話が生まれる。右の写真では、一方の児童の書いた意見に対して、他方の児童が教科書から根拠となる文を指摘して考えの相違を説明している。

他者の影響を受けて児童の考えが深まったり広まったりする様子が見られた。	4	③	2	1
本時のねらいに迫る「期待する児童の姿」が見られた。	4	③	2	1

2月

### 「みずささがしの旅」

「矢崎節夫になりきって日記を書く」という活動を通して、筆者の金子みずさ作品に対する思いと詩の解釈の仕方を読み取る。日記の内容をグループで交流することで、他者の表現を取り入れ解釈の幅を広げられるようにした。お気に入りの詩を見つけて詩集を作る単元を貫く活動につなげる。

本時の目標を具体化し、「考えを広げたり深めたりした姿」を明確にしよう。



5月

## 2年国語の実践

### 「自分の考えと比較して聞くには」

スピーチの映像を見て、ワークシートに観点別評価と気付いたことを記入。グループでそれらを交流しながら、「話し合いの中で深まったこと」を書く。

授業者は、グループ学習ではワークシートの記述内容を伝えるだけになったり、表面的なやりとりにとどまっていたりする生徒もいた、と振り返り、やや思考の深まりに欠けてしまったことを課題として挙げた。

他者の影響を受けて生徒の考えが変容していく様子が見られた。	4	3	②	1
課題解決・問題解決的な学習が成立していた。	4	3	②	1
グループ学習の目的が明確でなかったことが原因だったかもしれない。	④	3	2	1
	4	③	2	1

10月

### 「夏の葬列」

グループ学習を有意義な活動にするため、グループで課題解決することを目的とするとともに、付箋紙を用いて思考を可視化し、それらを台紙に貼る手だてを取り入れ、対話的な学びを促した。

グループで1つの解釈にまとめよう。



# 全校体制のアクティブ・ラーニング研究

## 各校の研究概要(平成27年度)

千葉県の実践フィールド校では、それぞれアクティブ・ラーニングの視点からの授業づくりを目指して、自律的・積極的に研究に取り組んでいます。また、我孫子市では小中一貫教育に取り組んでおり、小中の9年間で「カリキュラムでつなぐ」「学び方でつなぐ」をコンセプトに、各中学校区や各校の実態に応じたアクティブ・ラーニングの推進を図っています。

### 我孫子第一小学校

**自ら課題を発見し、主体的・協働的に解決することができる児童の育成**

～国語科におけるアクティブ・ラーニング型授業の実践を通して～

#### これからの時代に必要な力

知識を暗記し、再生するだけでなく、論理的に思考したり、わかりやすく表現したりするような汎用的能力

#### 本校が目指す児童の姿

**主体的に学習する児童**  
 ・自らが課題を意識して設定することができる。  
 ・これまで学んだ知識や技能を生かして課題に取り組むことができる。  
 ・学習を通して「わかった」「できた」を実現することができる。

**協働的に学習する児童**  
 ・多くの友達とかかわり合いながら、協力して解決することができる。  
 ・友達の考えに耳を傾けて聴くことができる。  
 ・相手にわかりやすく話すことができる。

探究的な学びのプロセスの構築

リレーションが確立された学級経営  
 交流の能力の育成  
 協働的な学習の日常

### 一小式アクティブ・ラーニングの確立

**探究的な学習**  
 ・単元を貫く課題  
 ・問題解決学習  
 ・体験学習 等

○知識・技能を活用  
 ○多様なグループにおける人間関係形成能力を生かす  
 ○自律的に活動する

**協働的な学習**  
 ・交流の能力を生かして学び合い学習 等

### 我孫子中学校

**「新時代を生きるために、自ら考え、判断し、表現する生徒」の育成**

～アクティブ・ラーニング型授業の実践を通して～

#### 我孫子中版アクティブ・ラーニング型授業

○生徒たちが自発的に導き出す学習問題

※生徒たちが、課題をつかみ自分たちのものにす  
 る学習課題

○考え、課題を深める小グループの活用。思考を深める活動

※型だけではなく「質」を高めるには、基礎基本の定着が必要

○まとめ、表現し、共有する活動の充実

※難しい言葉を使わずに、「自分たちの言葉」を使う「まとめ」

見いだす 調べる 深める まとめあげる  
 <「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム>  
 (千葉県教育委員会)

ステップアップ

○手法 ・ジグソー法 ・課題解決学習  
 ・ディスカッション ・ディベート など  
**言語活動の充実**

これまでの本校の研究

- 思考力・表現力・コミュニケーション能力の育成
- ICT機器の活用
- 小グループを活用した学習指導・・・Q-U検査(集団づくり)

他教科から学ぶ



(1) 教科の別なく1つの授業を全職員で参観。

(2) 今回の重点は「①主体的な学びを引き出す学習課題」、「②指導に活かす評価の在り方」、「③他教科から学び、活かす」。  
 (by研究主任)



(3) 協議会では、拡大した指導案と3色の付箋紙を用意。

(4) 色別の付箋紙にねらいの達成状況を書き、グループごとに拡大指導案に貼りながら意見交流。課題の解決策を発表。

### 校内研究会の様子

授業後のリフレクションに、学年を中心としたグループ協議を取り入れている。  
 授業者の反省をもとに、話題を焦点化。  
 若手教員もベテラン教員も積極的に意見を述べ合い、協議も充実。  
 最後に、協議内容を発表し全体で共有する。

